令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 論理国語 | 2 | 3 年 | 新編論理国語 | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　6　回），試験（年２回），面接指導（年　3　回）での評価 | | | |

指導目標

言葉による見方・考え方を働かせ、実社会における多様な言語活動を通して、論理的に思考し、諸課題を解決するために必要な国語の「知識・技能」を確実に習得させるとともに、複雑な文脈を的確に記述・批評し合う「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、生涯にわたって言葉を通じて社会に参画し、我が国の言語文化を尊重しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使っている。

【思考・判断・表現】

創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、他者や社会との関わりの中で、国語で的確に理解したり効果的に表現したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めている。

【主体的に学習に取り組む態度】

言葉を通じて積極的に他者や社会と関わったり、思いや考えを 深めたりしようとするとともに、言葉の価値を認識し、自覚的に読書に親しんで言葉を効果的に使おうとしている。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>4 月　　25 日 | 対話とは何か<br>世界をつくり替えるために | 文章の論理構成（序論・本論・結論）を的確に捉え、他者とのコミュニケーションや自己のあり方について批判的に読み解く。 | |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>5 月　　23 日 | 学ぶことと人間の知恵<br>ラップトップ抱えた「石器人」 | 科学や人間の知性をテーマにした文章を読み、複雑な情報を要約・整理する。筆者の仮説と検証のプロセスを論理的に理解する。 | 第　　1 回　（5月２７日）<br>・語の意味を適切に理解し、且つ用いる。<br>・漢字の読み書き<br>・構成や内容に基づき主題を的確にとらえ、且つ文意を適切に理解する |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>6 月　　20 日 | 弱肉強食は自然の摂理か<br>複数の「わたし」 | 自然界の仕組みや自己の多様性に関する文章を読み、固定観念にとらわれない柔軟な思考力を養う。文脈における言葉の意味を正確に捉える。 | |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
| --- | --- | --- | --- |
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>9 月　　26 日 | 最初のペンギン<br>豊かさと生物多様性 | 環境問題や生物多様性をテーマにした文章を読解し、自然と人間の共生について論拠を基に捉える。 | 第　　2 回　（9月１６日）<br>・語の意味を適切に理解し、且つ用いる。<br>・漢字の読み書き<br>・構成や内容に基づき主題を的確にとらえ、且つ文意を適切に理解する |
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>10 月　　24 日 | 鏡としてのアンドロイド<br>ロボットが隣人になるとき | 科学技術（AI・ロボット）と人間の関係性を扱い、技術の発展がもたらす未来と人間の本質を考察する。 | |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>11 月　　21 日 | 知識における作者性と構造性<br><br>もう一つの知性 | 知識の構造や人間の知性をテーマにした高度な論説文を精読し、論旨を的確にまとめる力を養う。 | 第　　3 回　（１２月２日）<br>・語の意味を適切に理解し、且つ用いる。<br>・漢字の読み書き<br>・独自に用いられている表現技巧を通して、主題を的確にとらえているか |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 文学国語 | 2 | 3 年 | 文学国語 | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　6　回），試験（年２回），面接指導（年　3　回）での評価 | | | |

指導目標

言葉による見方・考え方を働かせ、詩歌や小説等の文学的な文章に関する言語活動を通して、人間の内面や背景にある文化への深い理解に関わる「知識・技能」を習得させるとともに、作品の情緒を繊細に感じ取り、自己の思いを的確に表現・交流する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、伝統的な言語文化を継承・発展させ、豊かな人間性を涵養しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使っている。

【思考・判断・表現】

創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を 伸ばし、他者や社会との関わりの中で、国語で的確に理解したり効果的に表現したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めている。

【主体的に学習に取り組む態度】

言葉を通じて積極的に他者や社会と関わったり、思いや考えを 深めたりしようとするとともに、言葉の価値を認識し、自覚的に読書に親しんで言葉を効果的に使おうとしている。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>5 月　　9 日 | 光の窓<br>雨月物語<br>山月記 | 古典の系譜を引く作品や近代小説の端緒を読み、登場人物の葛藤や人間の本質、表現の象徴性を味わう。 | |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>6 月　　6 日 | 山椒魚<br>沖縄の手記から | ユーモアと諦念が交錯する小説や、記憶を巡る文章を読み、作品の持つ独特な語り口や背景を捉える。 | |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>7 月　　4 日 | こころ | 夏目漱石の名作を精読し、人間のエゴイズム、倫理観、登場人物の複雑な心理の揺れを論理的に追う。 | 第　　1 回　（6月１０日）<br>・語の意味を適切に理解し、且つ用いる。<br>・漢字の読み書き<br>・構成や内容に基づき主題を的確にとらえ、且つ文意を適切に理解する |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>10 月　　10 日 | 国語から旅立って<br>書かれた風景の中へ<br>檸檬 | 文学と風景、言語をテーマにした評論や小説を読み、言葉によって構築される世界観の魅力を学ぶ。 | 第　　2 回　（１０月７日）<br>・語の意味を適切に理解し、且つ用いる。<br>・漢字の読み書き<br>・構成や内容に基づき主題を的確にとらえ、且つ文意を適切に理解する |
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>11 月　　7 日 | 空っぽの瓶<br>クレールという女<br>父と暮らせば | 翻訳文学や戯曲（シナリオ）という形式に触れ、台詞やト書きから登場人物の深い心情や劇的効果を読み解く。 | 第　　3 回　（１１月１８日）<br>・語の意味を適切に理解し、且つ用いる。<br>・漢字の読み書き<br>・構成や内容に基づき主題を的確にとらえ、且つ文意を適切に理解する |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>12 月　　5 日 | 演技する「私」<br>映画の可能性のために | 文学や映像メディア、表現行為としての「私」を扱った評論を読み、現代の表現文化について多角的に考察する。 | |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 日本史探究 | 2 | 3 年 | 日本史探究 | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　6　回），試験（年２回），面接指導（年　3　回）での評価 | | | |

指導目標

歴史的な見方・考え方を働かせ、我が国の歴史の展開を世界の歴史と関連付けて構造的に捉える高度な「知識・技能」を習得させるとともに、地理的条件や文化的背景に着目して諸事象を多角的に考察し、論理的に構想・表現する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、主権者としての自覚を持ち、平和で民主的な国際社会の形成に「主体的に取り組む態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

地理に関わる諸事象に関して，世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課 題への取組などを理解するとともに，地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考・判断・表現】

地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを 活用して多面的・多角的に考察したり， 地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

地理に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を 主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い 理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の 諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>4 月　　25 日 | 第１編　先史・古代の日本と東アジア | 原始・古代国家の成立と貴族政治 | |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>5 月　　23 日 | 第2編　中世の日本と世界 | 武家政権の誕生と中世社会の展開 | 第　　1 回　（4月３０日）<br>日本列島のあけぼのから律令国家の形成、摂関政治にいたる流れを概観する。大陸との外交交渉や仏教文化の伝来について、図版や地図を用いて視覚的に解説する。 |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>6 月　　20 日 | 第3編　近世の日本と世界 | 織田・豊臣政権と江戸幕府の幕藩体制 | |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
| --- | --- | --- | --- |
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>9 月　　26 日 | 第3編　近世の日本と世界<br>第4編　近現代の地域・日本と世界 | 開国・幕末の動乱と明治維新 | 第　　2 回　（9 月 9 日）<br>ペリー来航に始まる開国と幕末の政局から、江戸幕府の崩壊、明治新政府による諸改革（文明開化や地租改正など）にいたる国家の近代化プロセスを解説する。 |
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>10 月　　24 日 | 第4編　近現代の地域・日本と世界 | 立憲国家の形成と大正デモクラシー | |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>11 月　　21 日 | 第4編　近現代の地域・日本と世界 | 昭和の戦時体制と戦後・現代社会 | 第　　3 回　（１１月１８日）<br>世界恐慌から太平洋戦争にいたる戦時下の動向を解説。さらに、終戦後の占領政策、高度経済成長から冷戦終結、現代日本が抱える諸課題について多角的に考察する。 |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 公共 | 2 | 3 年 | 公共 | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　6　回），試験（年２回），面接指導（年　3　回）での評価 | | | |

指導目標

現代社会の見方・考え方を働かせ、法・政治・経済および倫理に関する基礎的な社会の仕組みや課題についての「知識・技能」を確実に習得させるとともに、対立する多様な意見を尊重し、公共的な課題を多角的に考察し議論する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、人間尊重の精神に基づき、主権者としてより良い社会の形成に「主体的に参画・寄与する態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。

【思考・判断・表現】

近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができたか。

【主体的に学習に取り組む態度】

近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりより社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民と我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができたか。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>5 月　　9 日 | 公共のとびら<br>（第1章～第4章） | 青年期における自己形成や他者理解、公共的な空間での倫理観、および人権保障や法の支配などの基本的原理を学ぶ | |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>6 月　　6 日 | 自律した主体として社会に参画する私たち<br>（第1章） | 民主政治の基本原理、日本国憲法が定める統治機構（国会・内閣・裁判所）の仕組み、および地方自治について理解する。 | 第　　1 回　（5月２７日）<br>日本の政治機構（三権分立）や選挙制度の現状を解説する。主権者として政治や社会に参画することの意義について、具体例を交えて学ぶ。 |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>7 月　　4 日 | 自律した主体として社会に参画する私たち<br>（第2章） | 現代社会における法の役割や、民法・刑法の基礎、契約の重要性、裁判制度（裁判員制度など）と司法の在り方を学ぶ。 | |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>10 月　　10 日 | 自律した主体として社会に参画する私たち<br>（第3章） | 市場経済の仕組み（需要と供給）、政府の経済政策、金融・財政の働き、および現代の経済的課題について理解する。 | 第　　2 回　（１０月１４日）<br>需要と供給の仕組みや、政府・日銀が果たす財政・金融政策の役割を分かりやすく解説する。現代の物価や雇用など、経済の動きを身近な視点から捉える。 |
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>11 月　　7 日 | 自律した主体として社会に参画する私たち<br>（第4章～第5章） | 労働者の権利や働き方の多様性、雇用を巡る課題を学ぶ。あわせて、国際法の基礎や国際連合の役割、平和への課題を捉える。 | |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>12 月　　5 日 | 自律した主体として社会に参画する私たち<br>（第5章）<br>持続可能な社会づくりに参画するために | 地球環境問題や資源・エネルギー問題について多角的に考察し、持続可能な社会に向けて自ら主体性を持って参画する態度を養う。 | 第　　3 回　（１１月１１日）<br>地球問題、資源・エネルギー問題、少子高齢化など現代の多様な課題を整理する。学習の総仕上げとして、持続可能な未来への取り組みを多角的に考察する。 |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 数学Ⅱ | 3 | 3 年 | 新編　数学Ⅱ | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　9　回），試験（年２回）,面接指導（年　4　回）での評価 | | | |

指導目標

数学的な見方・考え方を働かせ、方程式、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分・積分の概念や原理・法則の「知識・技能」を確実なものとするとともに、事象を数理的に捉えて論理的に考察し、問題を解決する過程を振り返って表現する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、数学のよさを認識し、数学を「主体的に生活や学習に活用しようとする態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

・数と式、２次関数、三角比、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。
・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付ける。

【思考・判断・表現】

・数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付ける。
・図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付ける。
・関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付ける。

【主体的に学習に取り組む態度】

・数学のよさを認識し数学を活用し，粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断している。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>4 月　　25 日 | 1章　方程式・式と証明<br>1節　式の計算<br>2節　2次方程式 | 式の計算と二項定理<br>複素数と2次方程式 | 第　　1 回　（5月２０日）<br>3次式の展開や因数分解の公式を定着させる。あわせて二項定理を用いた展開式の特定の項の係数を求める計算手法を指導する。 |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>5 月　　23 日 | 1章　方程式・式と証明<br>3節　高次方程式<br>4節　式と証明 | 高次方程式<br>式の証明 | |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>6 月　　6 日 | 2章　図形と方程式<br>1節　座標と直線の方程<br>2節　円の方程式 | 直線の方程式<br>円の方程式 | 第　　2 回　（6月２４日）<br>因数定理を用いた高次方程式の解き方を解説する。後半は座標平面上の２点間の距離、線分の内分・外分、直線の方程式の求め方を指導する。 |
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>7 月　　4 日 | 2章　図形と方程式<br>3節　軌跡と領域 | 軌跡と領域 | |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>9 月　26 日 | 3 章　三角関数<br>1 節　三角関数 | 三角関数の定義 | 第　3 回　（9 月 9 日）<br>弧度法（ラジアン）と三角関数の定義、グラフの性質を解説する。さらに加法定理とその応用（2 倍角の公式、三角関数の合成）の基本計算を指導する。 |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>10 月　10 日 | 3 章　三角関数<br>2 節　加法定理 | 加法定理 | |
| 第　7　回<br><br>提出期限<br>10 月　24 日 | 4 章　指数関数と対数関数<br>1 節　指数関数<br>2 節　対数関数 | 指数関数とその応用<br>対数関数とその応用 | |
| 第　8　回<br><br>提出期限<br>11 月　21 日 | 5 章　微分と積分<br>1 節　微分係数と導関数<br>2 節　導関数の応用 | 微分の概念と導関数の応用 | 第　4 回　（１１月１８日）<br>極限値の求め方と微分の定義（導関数）を解説する。接線の方程式の求め方や、増減表を用いた関数の極値、最大・最小問題の解放を指導する。 |
| 第　9　回<br><br>提出期限<br>12 月　5 日 | 5 章　微分と積分<br>3 節　積分 | 積分（定積分と面積） | |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 化学基礎 | 2 | 3 年 | 改訂　新編化学基礎 | 啓林館 |
| 評価方法 | 添削指導（計　6　回），試験（年２回），面接指導（年　8　回）での評価 | | | |

指導目標

科学的な見方・考え方を働かせ、物質の構成、化学結合、物質の変化など、身近な自然の事物・現象についての「知識・技能」を習得させるとともに、観察や実験を通じて科学的に探究し、その結果を論理的に考察・処理し表現する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、自然への畏敬の念を深め、化学的な諸課題に「主体的に関わり、協働して解決しようとする態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。

・観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し，観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，根拠を基に導き出した考えを表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

自然の事物・現象に主体的にかかわり，それらを科学的に探究しようとするとともに，探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>5 月　　9 日 | 物質の構成<br>1章　物質の成分と構成元素 | 物質の分離・精製と構成元素の確認 | 第　　1 回　（4 月 3 0 日）<br>純物質と混合物の違いを整理し、ろ過・蒸留・抽出などの分離操作の仕組みを実験動画などを交えて解説する。 |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>6 月　　6 日 | 物質の構成<br>2章　原子の構造と元素の周期表 | 原始の構造と元素の周期表の規則性 | 第　　2 回　（5 月 2 0 日）<br>炎色反応や沈殿反応による元素の確認方法を学ぶ。後半は原子を構成する陽子・中性子・電子の性質や同位体を解説する。 |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>7 月　　4 日 | 物質の構成<br>3章　化学結合 | 各種の化学結合と結晶の性質 | 第　　3 回　（6 月 1 0 日）<br>電子配置と周期表の規則性を学ぶ。後半はイオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと決勝の性質を比較解説する。 |
| | | | 第　　4 回　（6 月 2 4 日）<br>化学の基本となる「モル(mol)」やアボガドロ定数の概念を、図を用いて解説し、粒子数を物質量の換算を指導する。 |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| | | | 第　　5 回　（9月2日）<br>モルの質量や気体のモル体積、モル濃度の計算を学ぶ。後半は化学反応式の係数の意味と、質量の量的関係の計算を指導する。 |
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>10 月　　10 日 | 物質の変化<br>1章　物質量と化学反応式 | 物質量（モル）の概念と化学反応式 | 第　　6 回　（１０月７日）<br>アレニウスやブレンステッドの定義による酸・塩基の分類を学ぶ。水素イオン濃度とｐＨの計算方法を丁寧に解説する。 |
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>11 月　　7 日 | 物質の変化<br>2章　酸と塩基 | 酸・塩基の性質と中和滴定の計算 | 第　　7 回　（１０月２８日）<br>中和反応と量的関係の計算と中和滴定の実験プロセスを解説する。後半は酸素・水素の授受による酸化還元の定義を学ぶ。 |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>12 月　　5 日 | 物質の変化<br>3章　酸化還元反応 | 酸化数と酸化還元反応の仕組み | 第　　8 回　（１１月１１日）<br>酸化数を用いた酸化・還元の判定方法を指導する。学習の総仕上げとして金属のイオン化傾向や電池の原理を解説する。 |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 体育 | 3 | 3 年 | 現代高等保健体育 | 大修館 |
| 評価方法 | 添削指導（計　3　回），試験（年２回），面接指導（年　15　回）での評価 | | | |

指導目標

スポーツに関する見方・考え方を働かせ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための各種種目の特性に応じた技能や安全管理の「知識・技能」を習得させるとともに、自己の体力や技術に応じた課題を見つけ、その解決に向けて練習方法や作戦を工夫し他者に伝える「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、ルールを遵守し互いに協働しながら、多様な運動に「主体的に親しむ態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、 運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| | | | 第　1～2　　回　（５月１３日）<br>【実技】<br>授業を受ける上での諸注意<br>集団行動 |
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>4 月　　25 日 | 表現運動の歴史と技の構造（器械・ダンス） | | 第　3～4　　回　（４月３１日）<br>【実技】<br>準備体操<br>バドミントン |
| | | | 第　　5　　回　（５月１７日）<br>【座学】<br>器械運動の技が成立する力学的原理を理解し、ダンスの歴史や構成の組み立て方を学ぶ。 |
| | | | 第　6～7　回　（９月３０日）<br>【実技】<br>準備体操<br>ソフトバレーボール |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
| --- | --- | --- | --- |
| | | | 第　８～９　回　（１０月２１日）<br>【実技】<br>準備体操<br>体育祭練習① |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>11 月　　7 日 | 表現運動の歴史と技の構造（器械・ダンス） | | 第　　10　　回　（１１月４日）<br>【座学】<br>体力の構成要素やトレーニングの原則を学び、健康維持のための生涯スポーツ計画を策定する。 |
| | | | 第　14～15　回　（１１月１２日）<br>【実技】<br>準備体操<br>バスケットボール |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 英語コミュニケーションⅡ | 3 | 3 年 | All Aboard! English Communication Ⅱ | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　9　回），試験（年２回），面接指導（年　12　回）での評価 | | | |

指導目標

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと［やり取り］、話すこと［発表］、書くことの五つの領域におけるコミュニケーションの応用的な「知識・技能」を確実に習得させるとともに、日常的・社会的な話題について情報や考えなどを的確に理解したり、目的に応じて適切に表現し伝え合ったりする「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、言語や文化への理解を深め、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声､語彙・表現、文法の知識を身に付けている。
・外国語の音声、語彙・表現、文法を、五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと［やり取り］、話すこと［発表］、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

・場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。
・外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。

【主体的に学習に取り組む態度】

・外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>4 月　25 日 | Pre-Lesson<br>Lesson 1 | 年間の学習計画と現在完了形の復習。伝統的な航海術と多様な文化の歴史を読み解く。 | 第　1 回　（5 月 2 0 日）<br>年間の学習方法を確認し、現在完了形を用いた自己紹介と日常表現の対話演習を行う。 |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>5 月　9 日 | Lesson 2 | 過去完了形。世界を魅了した音楽史を通じ、若者文化や異文化理解を深める。 | 第　2 回　（6 月 1 0 日）<br>過去完了形の基礎を解説。ビートルズの楽曲や歌詞の読解を通じた音読指導を行う。 |
| | | | 第　3 回　（7 月 1 日）<br>主格・目的格の関係代名詞を整理。動物保護に関する英文の構造を捉える読解演習を行う。 |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>6 月　6 日 | Lesson3 | 関係代名詞。オランウータンの生態と、動物保護および人間社会の関わりを学ぶ。 | |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>7 月　　4 日 | Lesson4<br>Special 1 | Little Hero / Kabuki：助動詞。人道的支援の物語と、日本の伝統文化を英語で捉える。 | |
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>9 月　　26 日 | Lesson5<br>Lesson6 | Mujina / Seeds of Hope：受動態・分詞。ラフカディオ・ハーンの怪談の背景と、未来への環境保護。 | 第　　4 回　（9 月 2 日）<br>様々な助動詞が持つニュアンスの違いを解説。英雄的行為についての簡単な意見交換を行う。 |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>10 月　　10 日 | Lesson7 | 不定詞。歴史的境界線（ベルリンの壁等）を越える人々の勇気と自由への意志を学ぶ。 | 第　　5 回　（9 月 9 日）<br>歌舞伎の美意識（隈取など）を説明する英文を読み、自国文化を解説する語彙を学ぶ。 |
| | | | 第　　6 回　（9 月 1 6 日）<br>能動態から受動態への書き換えを指導。怪談のストーリー展開を論理的に整理する。 |
| 第　7　回<br><br>提出期限<br>11 月　　7 日 | Lesson8 | 関係副詞。自然界の仕組みを模倣した最先端の技術革新（バイオミミクリー）を理解する。 | 第　　7 回　（１０月１４日）<br>名詞を修飾する現在分詞・過去分詞のルールを解説。環境保護に関する重要語句を定着させる。 |
| 第　8　回<br><br>提出期限<br>11 月　　21 日 | Lesson9 | 比較。チョコレート生産の裏側にある国際社会の不平等と、フェアトレードの意義を学ぶ。 | 第　　8 回　（１０月２８日）<br>it to 構文や enough to などの不定詞の重要表現を学び、歴史文の背景を整理する。 |
| 第　9　回<br><br>提出期限<br>12 月　　5 日 | Lesson10<br>Readings | Fighting Angel / Review：仮定法。医療への献身の物語と、2年生の文法・長文読解の総括。 | 第　　9 回　（１１月２５日）<br>where や why などの関係副詞の用法を解説。自然に学ぶ技術について英語で要約する。 |
| | | | 第　　10 回　（１２月２日）<br>原級・比較級・最上級の構文を整理。国際課題におけるデータの比較や不平等の論理を学ぶ。 |
| | | | 第　　11 回　（１月１３日）<br>事実とは異なる願望を表す仮定法過去の仕組みを解説。医療や貢献に関する長文の速読練習を行う。 |
| | | | 第　　12 回　（１１月２５日）<br>発展的な読み物を精読し、2学期（または年間）で学んだ主要文法の定着度をテスト等で確認する。 |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 論理・表現Ⅰ | 2 | 3 年 | NEW FAVORITE ENGLISH Logic and Expression | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　6　回），試験（年２回），面接指導（年　8　回）での評価 | | | |

指導目標

英語学習の特質を踏まえ、話すこと［発表］および書くことの領域を中心に、情報のつなぎ方や論理展開の基礎的な「知識・技能」を確実に習得させるとともに、自分の意見や考えについて事実と意見を区別しながら論理的に構成し、効果的に発信する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、他者との協働を促し、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

・必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。
・必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。

【思考・判断・表現】

・本文や会話などから概要や要点を正しく捉え、背景にある文化を理解し、自国の良さなどに気づくことができる。
・自分の考えを文章にして表現することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

・基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどをまとめ、話したり書いたりして伝え合おうとしている。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>5 月　　9 日 | Unit1<br>Lesson1<br>Lesson2<br>Lesson3 | <br>初めての食事<br>道に迷う<br>人物の紹介 | 第　　1 回　（5 月 2 7 日）<br>食事の注文や道案内、簡単な自己紹介・他者紹介に必要な基本文型を確認し、ペアで対話演習を行う。 |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>5 月　　23 日 | Lesson4<br>Lesson5<br>Lesson6 | 体調が悪い<br>買い物<br>行ってみたい場所 | 第　　2 回　（6 月 2 4 日）<br>病院や店舗での具体的なシチュエーションを想定し、症状の解説や商品の要望を正しく伝える表現を習得する。 |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>6 月　　20 日 | Lesson7<br>Lesson8<br>Lesson9 | イベントに誘われる<br>スクールカウンセラーに<br>お気に入りを紹介 | 第　　3 回　（7 月 1 日）<br>イベントに誘う・断る際の丁寧な表現や、悩みに対するアドバイスを英語でやり取りする演習を行う。 |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>9 月　　26 日 | Lesson10<br>Lesson11<br>Lesson12 | 待ち合わせに遅刻<br>家庭でのディスカッショ<br>英字新聞に投稿 | 第　　4 回　（9 月 2 日）<br>謝罪や理由を論理的に説明するフレーズを学び、身近なテーマについて賛否の意見を交換する。 |
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>10 月　　24 日 | Unit2<br>Lesson1<br>Lesson2 | <br>クラウドでディベート①<br>クラウドでディベート② | 第　　5 回　（１０月７日）<br>英字新聞への投稿やスピーチの構成（結論・理由・具体例）を学び、短い意見文を書く演習を行う。 |
| | Lesson3<br>Lesson4 | 経験談のスピーチ<br>遊びやスポーツを紹介 | 第　　6 回　（１０月２８日）<br>ディベートにおける肯定・否定の役割を理解し、提示されたテーマについて根拠に基づき論じる手法を学ぶ。 |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>11 月　　21 日 | Lesson5<br>Lesson6<br>Lesson7<br>Lesson8 | 日本をPR<br>物事の両面を伝える<br>読み手を納得させる<br>読み手を説得する | 第　　7 回　（１１月２５日）<br>日本の文化や特徴を分かりやすく紹介する表現と、メリット・デメリットを整理して発信する手法を学ぶ。 |
| | | | 第　　8 回　（１２月２日）<br>学習の総仕上げとして、相手を説得・納得させるための論理構造を整理し、エッセイ形式での記述演習を行う。 |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 家庭基礎 | 2 | 3 年 | 家庭基礎 | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　6　回），試験（年２回），面接指導（年　4　回）での評価 | | | |

指導目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、家族・家庭、衣食住、消費生活や生涯を見通した経済の管理に関する実践的な「知識・技能」を確実に習得させるとともに、生涯の生活設計や持続可能なライフスタイルについて、多角的な視点から考察・判断し表現する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、家族や地域と協働し、共に生きる社会の形成に「主体的に参画する態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。

【思考・判断・表現】

生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

様々な人と協働し、より良い社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活充実を図ろうとする実践的な態度を養う。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>4 月　　25 日 | 家族・社会との共生<br>第1章　生涯を見通す<br>第2章　人生をつくる | ・生涯を見通す<br>・家族・家庭を見つめる<br>・家庭と法律<br>・見直される性別役割分業 | |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>5 月　　23 日 | 第3章　子どもと共に育つ<br>第4章　超高齢社会を共に生きる | ・命を育む<br>・子供と関わる<br>・これからの保育環境<br>・これからの超高齢社会 | 第　　1 回　（6月１９日）<br>「家庭総合」の学習の概説<br>●家庭総合で何を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。 |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>6 月　　20 日 | 第5章　共に生き，共に支える生活の自立<br>第6章　食生活をつくる | ・社会保障の考え方<br>・食生活の課題について考える<br>・共に生き、共に支える | 第　　2 回　（6月１９日）<br>仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて学ぶ。ジェンダー・バイアスや性別役割分業意識がもたらす影響と、その解消のために必要なことについて考える。 |

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>10 月　　10 日 | 第6章　食生活をつくる<br>第7章　衣生活をつくる | ・食生活の文化と知恵<br>・これからの食生活<br>・被服を管理する<br>・これからの衣生活 | |
| 第　5　回<br><br>提出期限<br>11 月　　7 日 | 第8章　住生活をつくる | ・住生活の変遷と住居の機能<br>・安全で快適な住生活の計画<br>・住生活の文化と知恵<br>・これからの住生活 | 第　　3 回　（１１月４日）<br>住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考え、意見交換する。 |
| 第　6　回<br><br>提出期限<br>12 月　　5 日 | 第9章　経済生活を営む<br>第10章　持続可能な生活を営む生活の創造<br>第11章　これからの生活を創造する | ・生涯の経済瀬克を見通す<br>・持続可能な社会を目指して<br>・生活をデザインする<br>・持続可能な生活を営む | 第　　4 回　（１１月４日）<br>消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解し、行動できるようになる。<br>高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 情報Ⅰ | 2 | 3 年 | 新編情報Ⅰ | 東京書籍 |
| 評価方法 | 添削指導（計　4　回），試験（年２回），面接指導（年　4　回）での評価 | | | |

指導目標

情報に関する見方・考え方を働かせ、情報社会の問題解決、コミュニケーションと情報デザイン、コンピュータとプログラミング、およびデータの活用に関する「知識・技能」を確実に習得させるとともに、情報技術を適切に活用して諸課題を科学的に考察・処理し表現する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、情報モラルを身に付け、情報社会に「主体的に参画・寄与する態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用ついて理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。

【思考・判断・表現】

事象を情報としてその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。

【主体的に学習に取り組む態度】

情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>5 月　23 日 | 1章　情報で問題を解決する<br>2章　情報を伝える | ・情報とメディア<br>・問題解決の流れと発想法<br>・コミュニケーション<br>・情報デザイン | 第　1 回　（7月1日）<br>情報とメディアの特性<br>・情報の特性から，情報とは何か理解する<br>・さまざまなメディアの特性を理解する |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>6 月　20 日 | 3章　コンピュータを活用する | ・コンピュータの構成<br>・演算の仕組み<br>・プログラムとシミュレーション<br>・社会とのかかわり | 第　2 回　（7月1日）<br>モデル化とシミュレーション<br>・モデル化の考え方と，モデルの分類について理解する<br>・シミュレーションによるモデルの評価について理解する<br>・モデル化とシミュレーションにおける注意点を理解する |
| 第　3　回<br><br>提出期限<br>10 月　24 日 | 4章　データを活用する | ・インターネット<br>・情報セキュリティ<br>・データ<br>・社会のかかわり | 第　3 回　（１１月２５日）<br>情報モラル・個人情報<br>・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する<br>・情報社会の安全を守るための，法規や制度および個人の責任について理解する |
| 第　4　回<br><br>提出期限<br>11 月　21 日 | 5章　活動して提案する | ・様々なソフトウェア<br>・その他の知識の活用 | 第　4 回　（１１月２５日）<br>活動して提案する<br>・活動実習<br>・相互評価<br>・活動報告 |

令和8年度　青森山田高等学校　通信教育実施計画書

| 教科・科目 | 単位数 | 年次 | 教科書 | 出版社 |
|---|---|---|---|---|
| 総合的な探究の時間 | 1 | 3 年 | | |
| 評価方法 | 添削指導（計　2　回），　面接指導（年　2　回）での評価 | | | |

指導目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力の基礎となる「知識・技能」を体系化させるとともに、これまでの探究活動を自己の進路や将来の社会形成に関連付けて論理的に統合・公表する「思考力・判断力・表現力」を育成する指導を通して、生涯にわたり主体的・協働的に社会の諸課題に取り組み、価値を創造しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

（評価の観点）

【知識・技能】

現実社会の諸課題の解決に向けて、その原因や背景、要因を探究するための手がかりとなる知識を身に付けるとともに、様々な手段を用いて、探究に必要な諸情報を適切かつ効果的に収集できる手法を身に付けている。

【思考・判断・表現】

探究活動を通して、現実社会の諸課題を多様な視点から分析し、その原因や解決への取り組みを導き出し、導き出した結論を根拠に構想したり，社会の在り方などについて構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり，表現したりすることができている。

【主体的に学習に取り組む態度】

現代の諸課題を考察し、その課題の解決に向けての方策を，主体的に追究しようとしている。

| 添削課題 | 単元名 | 指導項目・概要 | スクーリング実施計画（実施内容） |
|---|---|---|---|
| 第　1　回<br><br>提出期限<br>6 月　6 日 | 進路探究 | 自分の将来に向けて | 第　1 回　（4 月 2 2 日）<br><br>専門学校や大学について調べる<br>職業と職種について企業担当者から話を聞く |
| 第　2　回<br><br>提出期限<br>10 月　24 日 | 高校生活を振り返る | これまでの成長とこれからの成長 | 第　2 回　（１０月１４日）<br><br>高校生活3年間を振り返り、その成果について発表する。 |